

平成 25 年度 新潟県高等学校野球連盟審判技術向上研修 報告書

新潟県高等学校野球連盟北支部

審判委員 能村友紀

この度は、第 95 回全国高等学校野球選手権大会における審判技術向上研修に参加させていただき、誠にありがとうございました。

本研修ではテレビ観戦では知ることの出来ない、審判委員の動き、大会運営の舞台裏、甲子園の雰囲気を感じ取ることができました。この研修を通して、高校野球審判員の心構えを再認識するとともに、今後の審判技術向上に大切なことを学ぶことができました。

つきましては、研修内容の要点について以下のとおり報告を致します。

1. 研修内容

- 1) 研修期間 平成 25 年 8 月 9 日 (金) ~11 日 (日)
- 2) 研修場所 阪神甲子園球場 (兵庫県西宮市甲子園町 1-82)
- 3) 研修目的 第 95 回全国高等学校野球選手権大会における審判技術向上
- 4) 宿泊先 ホテル NCB (大阪市北区中之島 6 丁目 2-27)
- 5) 参加者 岡部勉氏 (南支部), 能村友紀 (北支部)
- 6) 研修日程

8 月 9 日	第 2 試合 鳥取城北 vs. 熊本工業 (土井, 長谷川, 大沢, 倉谷) 第 3 試合 大分商業 vs. 修徳 (西貝, 宅間, 鈴木睦, 金岡) 第 4 試合 北照 vs. 常総学院 (鈴木隆, 橘, 片渕, 金丸)
8 月 10 日	第 1 試合 鳴門 vs. 星陵 (野口, 岸, 福永, 永井) 第 2 試合 作新学院 vs. 桜井 (田中, 元雄, 森, 高野) 第 3 試合のトス同席 第 3 試合 帯広大谷 vs. 福井商 (古川, 大槻, 乗金, 浅津) 第 4 試合 浦和学院 vs. 仙台育英 (窪田, 山口, 尾崎, 前坂)
8 月 11 日	第 1 試合 上田西 vs. 木更津総合 (戸塚, 金丸, 堅田, 福永) 第 2 試合 福知山成美 vs. 沖縄尚学 (池, 桑原, 西貝, 鈴木睦) 第 3 試合のトス同席 第 3 試合 聖愛 vs. 玉野光南 (若林, 美野, 倉谷, 片渕)

() 内は PL, 1BU, 2BU, 3BU

2. 審判員の心構え

1) 身だしなみ

審判委員は、試合担当の人は審判服、試合担当のない人は白ワイシャツ・白ポロシャツ

ツ、黒・紺スラックス、黒ベルト、黒革靴の服装で参加されていた。

- 日常からマナーと身だしなみには十分な注意を払い、社会人としての行動に自覚を持つ必要がある。

2) 動きと規則の習熟

審判委員は、メカニクス、規則の基本を十分に身につけている。3日間の試合においても反則投球、ボーク、送球がボールデッド内に入るなどの対処を適正に行われていた。メカニクスも乱れることがなく、とても試合進行がスムーズに行われていた。

- 大舞台で適正に実施できるということは、動きと規則の習熟している度合いに違いがある。まずは試合でよく起こるプレイを研究し、反射的に規則を適用できるように反復練習を行う必要がある。

3) 赤井副委員長のお話から

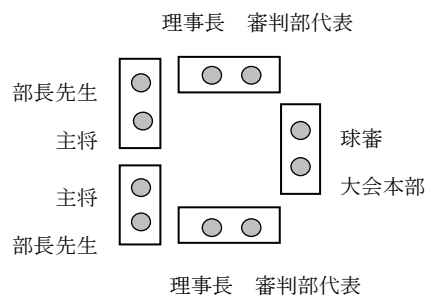
赤井副委員長が出場中のある審判委員について、「裏方の仕事を率先して一生懸命してくれている。だんだん上手くなってきた。」とおっしゃっていました。また、試合中は出場していない審判委員は、給水の準備を行うなどサポートを行っていた。

- グラウンド外での普段の態度が、ゲームでの適正かつ正確な判定につながるとあらためて認識された。

3. 試合前トス

トスは控え室の一室で右図のような配置で行われていた。立ち会い者は、球審、大会本部、部長先生、主将、高野連理事長、審判部代表者で行われていた。

トスの流れは、①テーピング等チェック、②ジャンケン、③球審から注意事項、④大会本部から注意事項、⑤主将、部長先生の握手の順番で行われていた。ジャンケンは球審の司会で行っていた。



球審からの注意事項

球審からの注意事項は、簡潔に一つだけ守ってもらうように選手に話しかけながら和やかに行われていた。部長先生には体調管理や控え選手の動きについてお願いをしていた。

【8/10 第3試合 古川球審】

- ・ 出場おめでとう。この球場は皆さん選手のホームグラウンドである。練習の成果を十分に発揮して欲しい。
- ・ 野球は競技スポーツなのでルールがあります。県大会で何か注意されたことはありますか？（両主将に県大会で注意を受けたことを話してもらおう）。
- ・ 一つだけ約束して欲しい。バッターボックスの中でサインを見る。バッターボックス内でサインは見ますか？（両主将に聞く。片足だけ出して見ます。）どうしてか？（投手が投げるかもしれないので）。絶対に投手には投げさせないように約束する。
- ・ 部長先生にお願いします。監督さんは試合に集中しているので気が回らないと思います。部長先生は攻守交代の時に控え選手を見守ってあげて下さい。グラブを持って行ったり、捕手の防具装着、控え捕手について声をかけて下さい。熱中症になっていないか健康管理に注意を払って下さい。

【8/11 第3試合 若林球審】

- ・ ようこそ甲子園へ。各県の代表できているので、フェアプレイの模範試合をやって下さい。
- ・ 挨拶は試合前の整列時に1回だけ行うので、バッターボックスに入るときには挨拶はいりません。投手を待たせないですぐに打撃姿勢に入して下さい。キャプテンは他の選手が出来ているか見て下さい。
- ・ 部長先生にお願いします。熱中症にならないように水分補給をさせて下さい。命に関わることなので安全第一でお願いします
- ・ 球審と主将との握手を行う。

- 試合前に多くのことを伝えるよりも、選手に守って欲しいことを簡潔に伝えることが有効であると思われた。部長先生にも試合進行の協力をお願いすることはとても良いと思われた。選手の緊張をほぐすような話術を身につける必要がある。

4. 試合の進行

1) 声かけ

- ・ 球審は投球練習のワンモアピッチの合図後に、次打者へバッターボックスに近づくように合図と声かけしていた。
 - ・ 球審は打者三振後には次打者に正対して、打席に入るように声かけをしていた。
 - ・ 1・3BUは追い出しの際に声をかけていた。（頑張れ。守備に着こう。）
- 積極的に声かけを行い、選手のリズムを生み出す配慮を行えるようにすると、結果的に試合時間も短縮されていくと思われる。

2) 審判間のコミュニケーション

- ・ 審判間でシグナルの確認を積極的に行っていた。ランナーが出塁したときには投手板に付く前にアイコンタクトを行い、タイミング良くシグナルで確認していた。常にお互いの動きを確認していた。
- ・ 頭部への死球の時は、球審は選手に座るように指示し、臨時代走を出すように合図をしていた。1・3BUの両者にベンチへ向かうように合図していた。
- ・ 給水中だけではなく、投球練習中もお互いに話し合っている場面があった。

- 他の審判委員の動きをよく観察し、タイミングよく合図や声かけを行えるようにする。臨時代走時における各審判委員の役割を迅速に行うように連携が必要である。

【赤井副委員長の話から】

- ・ 審判幹事との連携が大事である。試合に出ている審判委員が気付かない部分を確認することは幹事審判（控審判）の大事な仕事である。審判委員に試合を任せているので、試合中の出来事は審判委員に確認して対処するように指示を行うとおっしゃっていました。

8/11 赤井副委員長が審判幹事担当の試合時に球審をベルで3回呼び出した。（甲子園では球審を呼ぶベルがある）

1回目：1回表の投球練習時に、打者、次打者以外の選手がベンチ前で素振りを行っていたので注意するように指示した。

2回目：投手のグラブのひもが少し長いように感じたので、確認してから長かったらその場で結ぶように指示した。この時は話を聞いていた本部の人がベンチに行って選手に結ばせたので、次の回に球審が確認しに行った時には結ばれていたようである。

3回目：ショートが6回箇所くらい触って投手にブロックサインを出していたので、確認して注意するように指示した。注意した後は3箇所サインは完結し、投手がサインを見る時間が短縮した。

3) テンポアップ

- ・ 2塁打の場合は、2BUは防具をつけているとすぐにタイムをかけて、1・3BUは攻撃ベンチ側のベースコーチに行くように指示し、次にベンチの控え選手に戻ってきたベースコーチから受け取りに来るように指示していた。
- ・ 間合いが長い投手には早く投げるように指示していた。

4) 全力疾走

- ・ とにかく位置につくまで全力疾走していた。攻守交代時の投手板を掃きに行くときは、

全力疾走でマウンドへ行っていた。

5. ジェスチャー・メカニクス

- ・ 1BU は走者の有無に関わらずに投球と同時に打者に正対していた。
- ・ 無走者，センター前ライナー制のヒット。2BU は打球を確認しながら，3BU が2 塁カバーに来なくて良いと合図を送りながら2 塁付近へ移動していた。
- ・ 左中間の本塁打の際に，2BU は2 塁の触塁を確認した後に，球審に3 塁へカバーに来なくてもよいという合図をして3 塁の触塁も確認していた。
- ・ 反則投球（2 段モーション）の処置（1BU 桑原氏）。タイム→投手横まで行って注意を与える→2 回足を叩いて反則投球で1 ポールであることを全体に伝える→球審カウントコール。
- ・ タイムプレイは2 度あった。

1 死。走者 2・3 塁。センターフライ。2 塁走者タッグアップにて3 塁でアウト。3 塁走者の本塁到達が遅かった。得点なし。球審は大きく両腕を頭の上で振り，本塁の前に出てからノースコア（両手で頭の上で交差）を指示した。

2 死。走者 3 塁。左中間ヒット。3 塁走者は本塁到達。打者走者は2 塁オーバーランにて接球でアウト。球審は本塁を3 度ポイントし，スコア（1 点）を指示した。

- ・ 特にトラブルボールや際どいプレイの時は，3 回ほど繰り返してアウト・セーフのジェスチャーをしていた。大きく，はっきりとわかるように行われていた。

【赤井副委員長の話】

アウトは全部一緒の調子で行うのではなく，特に際どい時はジャッジに「気持ちを入れる」。そうすると選手や観客が納得する。単に過度なジェスチャーを行うということではない。

- ・ 無走者，走者 1 塁の時は，捕手がタイムを要求してもタイムをかけない。捕手と一緒に投手近くまでついて行くことが通常で行われていた。

【赤井副委員長に質疑】

Q: タイムをかけないのはなぜか？

A: なるべくプレイを止めないようにしている。走者が走ったら即タイムをかけるので一緒について行く。「タイムかけないから，早くして」というと，早く話を終える傾向がある。

Q: 何回もタイムを要求する捕手がいるがどうしたらよいか？

A: 制限することはできない。相手チームの頻度が少ない場合は，「向こうのチームはあまり行ってないので，協力してくれ」など大人の話術でやんわりと伝える。

- 選手や観客にわかりやすくお知らせすることが大切である。良い位置取りと気持ちを入れてジャッジをすると選手や観客が納得する。

6. その他

・3日間の試合で、ダブルプレイや本塁上でのクロスプレイが何度かあったが、捕手のオブストラクションや走者のラフプレーはなかった。アマチュア野球内規の危険防止のルールが徹底されていた。

・投手のボークや反則投球はよく行われていた。

○ 特に投球動作や本塁付近のプレイについては練習試合で適正に改善されるように指導し、全国大会へ送り出してあげる必要がある。

所感

甲子園では出場している審判委員だけではなく、審判幹事をはじめとする他の審判委員や大会役員の大会運営に関わる人で暖かく選手を迎えて、実力を発揮できるように配慮していると感じました。これまでの審判委員の心が引き継がれてきた長い歴史と、審判委員の組織力や運営力が大舞台での堅実な判定を支えていると感じました。

今回の研修を通じて、高校野球の審判委員とは何かをあらためて考える機会になりました。「高校野球審判の手引き」の“高校野球審判委員としての心構え”を読み返してみると、甲子園の審判委員はこれらの模範となる行動がとれていると感じました。大観衆の中で適正に判定ができる精神力と技量は、実践経験と研究の成果である。少しでも近づけるように人格、技術、体力を向上していく必要があるといえる。

高校野球の審判委員は、規則や試合進行における教育的役割があることを再認識し、練習試合や大会で規則に従った適正なプレイを伝達する義務がある。試合では選手への気配りや話術を身につけて、リズムを生み出す配慮ができるようになることが課題であると認識いたしました。これらの課題を改善できるように努力をしていきたいと思えます。

最後になりますが、今回このような機会を与えて下さいました県高校野球連盟関係者、審判長ならびに審判委員の皆様、甲子園球場でご指導を下さいました赤井副委員長に感謝申し上げます。今回の研修で得られたことを選手に還元できるように努力していきたいと思えます。

以上